

岩国市立図書館

☎ (0827) 41-0880



51

(再)

昭和二十九年十月記

錦帶橋の話

品川資著述

「錦帯橋の話」目次

第一編

一、序言

二、岩国地誌概要

錦川と岩国（錦川の名称起源）

吉川氏と岩国（錦帯橋の架設、開干拓と墾田）

吉川氏前歴概要

三、錦帯橋の由来

1. 何故にアーチ型とする必要があつたか

2. アーチ型創案の動機と経緯

カキ餅説、独立の感化説、西湖誌、独自の拱橋の創造、拱橋仕法と力学法則

3. 創建工事の概要

(一) 延宝元年の創設工事

イ、機構と施工形態

推定工事費及労力

ロ、作業施設

ハ、資材（石材、木材）

ニ、工事費及労力（米銀算用書、

(二) 延宝二年の復旧工事

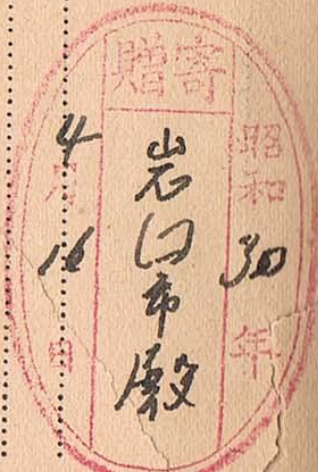
工期、工事費及労力

4. 創建功勞者の事蹟概要

(一) 吉川広嘉公

(二) 児玉九郎右エ門

長崎行とその真相、広嘉公と独立



一 一
二 一
四 五
五 五
七 七
一 四
一 四
一 五





534

二

(三)湯淺七右エ門及米村茂右エ門

戸波流築城法と石垣、江州脱歸について

四、錦帯橋の構造

一、創建当時の構造

1. 橋脚(台)

(一)下部(基礎)構造の大要(松丸太編木法、根石)

(二)上部(軀体及桁受)構造概要

築城法に則る石垣築造、劔先笠石、石台内部、橋力刎返しと隔石、振留石、連絡歩道、橋脚の位置決定、橋脚の形状及方向、同上寸法、附近の河状と防護、河床洗掘状況

2. 橋体(木橋)

(一)下部(桁部)構造の大要

イ、拱橋の部

(1)敷梁 (2)拱肋(桁、棟木、楔、梁、金具、後詰木)

(3)補強部材

(4)平均木

(5)葎板及梁鼻隠

ロ、柱橋の部

(1)普通橋脚 (2)梁、桁 (3)葎板、雨覆

(二)上部(橋板、高欄)構造の概要

橋板(段板、敷並板)、高欄(親柱、高欄)、用材としての適格条件

二、創建後昭和二十五年流失迄の設計變更

1. 河床敷石 2. 捨石 3. 鞍木取付 4. 葛石、亀甲石設置 5. 段板接合方法の變更 6. 柱橋々板

継目銅板取付 7. 上げ高欄 8. 連絡歩道の舗装變更 9. 擬宝珠高欄 10. 通風孔設置

第二編

一、橋体架設の順序及方法の概要	三二
一、拱橋（第二、三、四橋）の場合	三一
1. 現寸図の作成（型板とその保存）	31
2. 仮組立	31
3. 足場架設	31
4. 水平木の取付	31
5. 拱助架渡	31
6. 橋体仕上げ	31
7. 仮手当	31
二、柱橋（第一、第五橋）の場合	三五
二、錦帯橋は如何にして維持保存されて来たか	三七
一、経費の支出方法	三七
1. 藩政時代に於ける支出方法（橋催合、橋出米法の制定）	37
2. 廃藩後の支出方法（維持費積立金規程の制定、岩国保勝会の発足と基金募集）	37
二、架換、敷換、修理工事	三九
1. 工期	39
2. 施工の機構（藩政時代の編成要領、その後の形態）	39
3. 工事費及労力	39
4. 木材の調達と材種の變遷（材種の變動、植林自給より藩外調達へ）	39
5. 架換年代表の誤謬	39
6. 競争工事御法度のこと	39
三、橋の保護施策	四四
1. 藩政時代の措置（橋守、禁制御触れ）	44
2. 明治以降の施策（制札、管理委員設置、名勝指定及風致地区設定による保護）	44
四、橋の清掃	四六
橋守、団体、篤行家による清掃、掃除人夫の常設	46
三、昭和二十五年の流失と再建工事の概況	四七
一、流失	四八
1. 流失の原因（直接原因、間接原因）	48
2. 流失の状況	48
二、再建工事の概要	五〇

1. 再建を決定した素因	五〇
官民一致の再建運動、観光地百選首位当選、再建を決定づけた△ワン会議	
2. 再建の構想（復舊方針）	五二
復旧方針の大綱、その具体化、問題となつた高欄形式（交詢社会議、古式復元の理由）	
3. 再建の機構	五六
建設局（課）設置の理由、専門委員及囑託の任命、建設特別委員会設置	
4. 施工形態と工事請負人	五七
（一）施工形式	
（二）請負契約	
（三）工事請負人	
5. 施工の概況	五八
（一）施工計画及工事概要	五八
当初及最終施工計画、最も苦心を要した石垣の築造、昭和の湯浅出づ、再建工事の天王山第四橋の八月架設、大工の第六感	
（二）作業施設及假橋	六二
（三）再建工事に於て構造設計上改變せられた諸点	六二
イ、橋脚の部	
基礎、軀体（心壁、石垣）桁受、高さ、方向及径間	
ロ、普通橋脚の部（柱橋）	
ハ、橋体の部	
高欄形式、橋長、橋板取付方法、同継目方式、高欄金具締付法、アングル取付	
6. 木材防腐処理	六四
（一）防腐劑の種類とPCP選定の理由	六五

(二)防腐處理の概要 六六

イ、注入加工（加工々場、使用剤、注入量、注入方法）

ロ、防腐處理の為の木材輸送（輸送要件）

ハ、格納保管

ニ、固著剤及油性P・C・Pの塗布

(1)固著剤の塗布（理由、薬剤、塗布要領）

(2)油性P・C・Pの塗布（理由、塗布用材）

(三)防腐處理の效果 六八

橋体上部及下部構造の寿命、注入の為の逆効果如何、P・C・P餘談

7. 工事費、勞力及資材の調達 六九

(一)工事費の概要 六九

イ、財源内訳（外部財源、内部財源）

ロ、豫算及決算（豫算の變遷、決算内訳）

(二)勞力の概要 七一

(三)資材（石材、木材）の調達 七二

イ、石材（橋脚石垣、その他）

ロ、木材（適格条件、原産地、所要數量）

第三編 七六

一、橋名とその縁由 七六

橋名十二種に及ぶ、各橋名の縁由、「錦帯」の名は

二、錦帯橋にまつわる伝説と俗説 七八

一、武勇伝二題	七八
1. 中山新三郎の仇討	七九
2. 佐々木巖流燕返しの剣法修得	七九
巖流は岩国に在住したか、巖流の名は岩国に縁由するか、巖流ゆかりの柳設置	
二、人柱説	八〇
人柱の伝説、人柱有無の調査、人柱説覆へる	
三、架橋の祕法と一子相伝説	八一
1. 架橋祕法の存否（切組技術上の祕法、棟合せ祕法）	
2. 一子相伝の真相	
四、橋体崩落祕法の存在説	八三
五、横山城を破却し錦帯橋を存置したとの俗説	八四
三、錦帯橋交通概史	八四
一、架橋以前の状況	八四
源助橋、横山渡橋、大橋（渡船）	
二、架設後の交通とその変遷	八六
1. 交通厳制時代（橋守監視、例外通行許可）	八六
2. 制限緩和時代（来觀者の急増、夕涼禁止のこと）	八七
3. 自由交通時代（制札の設置、通行者の良識による保護、ジープ罷り通る）	八八
三、交通雑話	八九
1. 槍倒松の由来	
2. 炬火籠の新設	